

「保健師助産師看護師実習指導者講習会」修了者における 受講効果に関する検討

佐藤幹代^{*1}・三橋祐子^{*1}・森祥子^{*1}・城生弘美^{*1}

究者所属機関の倫理委員会（番号12-17）の承認を得て実施した。

I. はじめに

1994年、厚生省健康政策局長から各都道府県知事宛てに「保健師助産師看護師実習指導者講習会」（以下、講習会）の開催要請があり、本学もこれを受けて現在まで18年間にわたり講習会を実施し、実習指導者講習会を受講した者（以下、修了者）は約700名を超える。修了者を対象とした評価研究として、実践につながる講義科目の学習効果及び、継続教育の必要性を明らかにしたもの、指導の役割遂行に影響する要因、指導者の教師効力などについて明らかにされつつある。しかし、調査対象は単年度受講生であり、長期的視座から講習会受講後の実態や、教育効果について検討した報告は少ない。

II. 研究目的

「保健師助産師看護師実習指導者講習会」を受講した者の実習指導に対する関心、意識及び態度・行動に関する、講習会受講の効果について明らかにする。

III. 方法

自記式質問紙郵送法。対象は、2006年～2011年度（5年間）関東圏内の一私立大学における実習指導者講習会を受講した修了者199名。調査期間は、2012年11月～2013年1月修了者が所属する60施設に依頼文書と、自作の調査用紙を送付し、郵送返却にて回収した。調査項目は、1）対象者基本属性、2）関心の変化（学生、実習指導、看護教育全般）、3）意識の変化（指導連携）、4）実習指導態度・行動の変化（関係性構築、進捗別指導）、5）継続学習等とし、4件法で回答を求めた。分析として統計処理は、SPSS Ver. 21.0を使用し、1）全変数の基本統計量を算出、2）変数間の関連はSpearmanの順位相関係数を算出した。倫理的配慮：研

IV. 結果

1. 回答者数108名（回収率54.2%）、有効回答数106名（有効回答率98.1%）、対象者平均年齢：36.2歳、看護師平均経験年数13.2年であった。

2. 対象者の基本属性は、表1に示す。

3. 関連分析の結果、「実習指導への関心」や「学生への関心」は、「実習指導における自己の課題の明確化」、「フォローアップ研修への参加の意思」等すべての項目と有意な正の相関が認められた。また、実習への関心、学生への関心、看護教育全般への関心が高まるほど自己

表1 対象者の基本属性

(n=106)		
項目	内訳	人数(%)
年齢	20歳代	12(11.3)
	30歳代	72(65.1)
	40歳代	21(19.8)
	50歳代	1(3.8)
看護師経験年数	4年～8年	24(22.6)
	9年～12年	25(23.6)
	13年～14年	23(21.7)
	15年～19年	20(18.9)
	20年～29年	14(13.2)
看護学習歴	2年課程	21(19.8)
	3年課程	70(66.0)
	4年課程	12(11.3)
	大学院	1(0.9)
	無回答	2(1.9)
勤務施設病床数	100床未満	6(5.7)
	100床～300床未満	27(25.5)
	300床～500床未満	44(41.5)
	500床～1000床未満	26(24.5)
	1000床以上	1(0.9)
	無回答	2(1.9)
勤務病棟	内科病棟	17(16.0)
	外科病棟	13(12.3)
	内科・外科混合病棟	30(28.3)
	外来	4(3.8)
	集中治療室	2(1.9)
	その他	39(36.8)
	無回答	1(0.9)

*1 東海大学健康科学部

の課題が明確になる可能性が示唆された ($p < 0.001$)。さらに、「看護師経験年数」は、「フォローアップ研修への参加の意思」と有意な負の相関が認められた ($p < 0.01$)。

V. 考察

過去5年間の講習会修了者は、実習指導、学生及び看護教育全般への関心が講習会受講により高まり、その関心の高まりが、実習指導における修了者の実習指導への

意識、行動、態度、継続教育に効果をもたらすことが示唆された。また、これらの高まりは、実習指導における自己の課題をより明確にし、継続教育の必要性について認識する機会となっていた。

看護師経験年数が低いほど、事後研修に参加する意思が高く、臨床実習指導の質を担保するために、講習会終了後研修プログラムについても今後、検討する必要がある。(平成24年度 東海大学健康科学部特別研究費 No.3 の助成をうけた)